

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	令和2年度第1回東村山市創生総合戦略推進協議会				
開催日時	令和2年7月29日(水)午後6時30分から午後8時20分				
開催場所	本庁舎6階 601会議室				
出席者及び欠席者	<p>●出席者： (委員) 山本尚史会長、山口和歌子副会長、當麻武勇委員、今橋義孝委員、三島雄介委員、榊原弘泰委員、前村敦委員、溝井裕之委員、村田徹委員、 (理事者) 渡部尚市長 (市事務局) 武岡地域創生部長、新井地域創生部次長、柚場シティセールス課長、高橋シティセールス係長、伊澤シティセールス課総合研究事務員</p> <p>●欠席者： なし</p>				
傍聴の可否	可	傍聴不可の場合はその理由		傍聴者数	2名
会議次第	<ol style="list-style-type: none">1 委嘱状交付2 開会3 会長及び副会長の選任4 市長挨拶5 議題<ol style="list-style-type: none">(1) 報告事項<ol style="list-style-type: none">①東村山市創生総合戦略 平成31年度の進捗状況について(2) 協議事項<ol style="list-style-type: none">①「東村山市人口ビジョン(改訂版)」の案について②「第2期東村山市創生総合戦略」の体系案について6 その他7 閉会				
配布資料	<ul style="list-style-type: none">・令和2年度第1回東村山市創生総合戦略推進協議会次第・【資料1】東村山市創生総合戦略 平成31年度の進捗状況について・【資料1-1】東村山市創生総合戦略 基本目標別施策一覧・【資料2】東村山市人口ビジョン(改訂版)案・【資料3-1】第2期東村山市創生総合戦略の策定に向けた整理・【資料3-2】東村山市第2期創生総合戦略の体系案・【資料3-3】第2期総合戦略イメージ				

問い合わせ先	地域創生部シティセールス課 担当者名 高橋 電話番号 042-393-5111 内線2922 ファックス番号 042-393-6846 e-mail citysales@m01.city.higashimurayama.tokyo.jp
会 議 経 過	
<p>1. 委嘱状交付</p> <ul style="list-style-type: none"> — 渡部市長より委嘱状を交付 — 委員自己紹介 — 事務局自己紹介 <p>2. 開会</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> — 資料の確認 <p>本日の協議会には委員9名出席。協議会委員数の過半数を満たしているため、東村山市創生総合戦略推進協議会設置規則第6条第2項の成立条件を満たしている。次第に沿って進める。</p> <p>3. 会長及び副会長の選任</p> <p>会長には、山本委員、副会長には、山口委員が選任される。</p> <ul style="list-style-type: none"> — 会長・副会長挨拶 <p>(会長)</p> <p>引き続き、東村山市創生総合戦略推進協議会の会長に選任いただき、感謝申し上げます。本協議会は、単なる協議の場ではなく、皆さんから多くの思いを表明していただく場である。皆さんの熱い思いを表明していただき、最終的に地元のためになるということを目指して考えている。</p> <p>(副会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> — 市民の目線として議論の活性化に貢献できればと思う。 <p>(会長)</p> <p>平成28度の第1回協議会において、本会議は原則公開とし、その都度、案件によっては一部非公開にするとした。</p> <p>本日の会議内容において、非公開にする特段の理由はないと判断されるが、本日の会議はすべて公開ということによろしいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> — 異議なし 	

(会長)

それでは、傍聴者の方がいらっしゃれば、事務局にてご対応いただきたい。

—事務局確認、傍聴者 2 名入室

4. 市長挨拶

(渡部市長)

本日は新型コロナウイルス感染症拡大が続く中、また公私とも大変お忙しい中、第 1 回東村山市創生総合戦略推進協議会にご出席をいただき感謝する。先ほど、2 年間の任期で委嘱状を交付させていただいた。様々な立場・知見から、たくさんのご意見をいただければと思う。新型コロナウイルス感染症対策においては、きめ細かく進めながら、社会経済活動の両立を図っていかなくてはならないと考えている。国の交付金を活用しながら、市内産業振興に関する取り組みも予定している。

先ほど委員より、新型コロナウイルス感染症はプラスの要因にもなるのではないかとの話をいただいた。当市のようなベッドタウンでは、「ポストコロナ」「ウィズコロナ」で様々な社会変化が起きる流れを、東村山創生に結びつくようしっかりとらえ、生かしていきたい。

5. 議題

1) 報告事項

(会長)

議事に入る。(1) 報告事項の「①東村山市創生総合戦略 平成 31 年度の進捗状況について」事務局より説明願いたい。

(事務局)

- 【資料 1】東村山市創生総合戦略 平成 31 年度の進捗状況について
 - 【資料 1-1】東村山市創生総合戦略 基本目標別施策一覧
- 事務局より説明

(会長)

ここまでの中で、質問や意見があれば、お願いしたい。

—質問・意見なし—

(会長)

次に、議題(2) 協議事項の「①「東村山市人口ビジョン(改訂版)」の案について」事務局より説明願いたい。

(事務局)

- 【資料 2】東村山市人口ビジョン(改訂版)案」事務局より説明

(会長)

ここまでの中で、質問や意見があれば、お願いしたい。

(委員)

他地域に比べると、人口減少が比較的緩やかに感じるがいかがか。

(事務局)

高齢化が進んでいるが、近年の住宅開発の影響により、今のところ緩やかであると認識している。

(委員)

20～29歳の転出数が多く、時期的な背景があることは理解できるが、転出先が近隣市であることの理由の分析は行っているのか。

所沢市や小平市などは、沿線・距離を考えたときに、本市との差はほぼ無いと感じる。

(事務局)

西武線沿線には土地勘があることと、マンション開発等による影響が大きいと仮説を立てている。

(委員)

マンションを建てやすい環境を整えれば、一時的に人口を増やすことが可能ということか。

(事務局)

東京圏への転入増は続いている状態なので、供給はあると思うが問題は2つある。1つ目は対応する土地があるか。当市の売りである、都内でありながら豊かな緑・農地を潰していくことが良いことなのか。2つ目は、マンションが建つことにより、ファミリー層の転入が多いことを考えると、一時的に学校の教室不足等の問題が発生してしまう。

したがって、マンションを建てるのが正解なのではなく、長期的なビジョン・考え方を施策として展開していく必要があると考える。

(委員)

20代の転出人口過多は他市と比べても如実だと感じる。立川市は全く逆で、30代以降の転出が多くなるのが課題になっている。若い人にとっては住みたいまちでも、子育てするにはより郊外を好む。本市では若者の流出の後に30代の転入があるギャップを課題とみる中で、視点が子育てに寄りすぎていると感じた。若者世代を市にとどめるためには子育て以外に若者に支持されるような、魅力を生み出す工夫をするという視点も必要なのではないかと思う。

(事務局)

5年前の人口ビジョンでは25歳から44歳まで転出増だったものが、今回の人口ビジョンでは、20代のみが転出増と、改善している状況は見て取れる。ベースになるのは、住宅開発である。15～19歳の転出が多いのは、中高生がファミリーでの移

動ではなく、多分近隣市にある大学の影響と思われる。人口ビジョンでは5歳刻みで分析しているが、過去に行った人口動態調査では、1歳刻みで分析を行ったことがある。同調査によると、18歳の移動が顕著であった。その人が大学卒業を迎える20～24歳での移動、就職といったライフスタイルの変化が大きな影響を与えているということがわかっている。そのため、20代の方に市の魅力を知ってもらって、とどまってもらいようにすることは必要であると思う。特に、東村山で生まれ育った子どもたちに、いかに根付いてもらえるかということが、重要な課題になると認識している。

(会長)

次に、議題(2)協議事項の「②「第2期東村山市創生総合戦略」の体系案について」事務局より説明願いたい。

(事務局)

- 「【資料3-1】第2期東村山市創生総合戦略の策定に向けた整理」
 - 「【資料3-2】東村山市第2期創生総合戦略の体系案」
 - 「【資料3-3】第2期総合戦略イメージ」
- 事務局より説明

(会長)

本件について、質問や意見があれば、お願いしたい。

(委員)

基本目標1、基本的方向1だが、結婚から妊娠へ変更されているが、結婚を外した理由、背景はいかがなものか。

(事務局)

結婚の取組については、協議会でも論点になったと認識している。委員の皆様から、民間で行っているお見合いのようなサービスを行政で行う必要はない、結婚を直接意識しないで、若い世代が自然と集まるような機会を創出するのによいのではとの意見もあったと思う。国の総合戦略は、国全体の出生率の問題があるため、結婚を大きく掲げており、国の要素を踏まえ、タイトルとして結婚は残すが、直接的な施策の方向では、結婚対策の取組より、子育てしやすい環境・若い人が出会いの場をもてるようなイベントの開催等で対応していきたい。

(委員)

結婚に関する施策を完全になくすということではないのか。

(事務局)

その通りである。

(委員)

第2期総合戦略策定に向け、各項目で専門所管と意見交換を行うと思うが、いつごろまでに進めるのか、今後のスケジュール感がわかれば教えてほしい。

(事務局)

今後は、庁内で議論を進めていくことになる。すでに皆様よりいただいている提案については、各担当所管に投げかけ、ヒアリングも開始しているところである。

秋口になると思うが、素案としてまとまったものを協議会にお示しする予定である。

(委員)

全体の視点という意味で、地方制度調査会の答申でテーマとなっている広域連携についての記載が見受けられないが、そうした視点は検討されないのか。シティではなく、所沢市などの周辺市を含めたエリアで見るという考えもあるかと思う。

数字として気になるのは、出生率と転入超過に矛盾を感じたがどうか。出産してから、転入してくるということか。

(事務局)

広域連携の観点については、現在のところ具体的には盛り込んでいないので、これから庁内でも検討していきたいと思う。他の委員からも、広域連携についてのアイデアはいくつかいただいているので、あわせて検討していきたい。

出生率と転入超過の矛盾についての要因は分析しきれていないので、今後検証したいと思う。

(委員)

資料3-1について、大きな加筆修正の必要性は感じなかったが、コロナ禍に対する支援は基本目標2のみでなく、全体に係ってくると思う。目標を変えることはできないが、状況の変化において過程は変えられると思うので、しっかり考え英断できるように、我々が声を出す必要があると考えた。副会長が「コロナのピンチはチャンス」と言っていたが、まさにその通りだと思う。

人口推計において、今後定年が70～75歳まで伸びる可能性がある中で、60歳～75歳の年齢層の方も生活しやすいまちとして選んでもらうことも出てくる。そのような状況で、働き方について考える必要があると思う。また、ファミリーという概念を広くとらえ、3世代、4世代で囲い込むやり方もありだと思う。このコロナ禍は臨機応変に動かしたほうが良いと思った。

(副会長)

言葉尻の話になってしまうのだが、文言が変わって赤字になっている部分について違和感があった。基本目標1の「結婚・出産・子育てしたい」というところ。「〇〇したい」という気持ちは、他人・行政が押し付けてはいけないことだと思う。「〇〇したい」ではなく、第1期同様の「希望をかなえる」、「サポートする」という意味にとれるような文言に変更したほうが良いと思う。

(委員)

資料3-2具体的な施策について、1期と変更のない部分もあると思うが、設定するKPIについて今後協議会で議論できる機会があるか。

(事務局)

次回以降の協議会で議論したいと思う。

(委員)

KPIは一度設定してしまうとなかなか変更できず、KPIを取ることが出来ず5年過ぎてしまったとの反省が非常に多くある。項目・体系の整理を行っている最中ではあるが、最も重要なのは、アンケート等ではなく、実数的に把握できるものを具体的なKPIとして各項目で設定できるかだと思う。

(会長)

次回の協議会で議論する予定をお知らせいただけるとわかりやすいか。

(事務局)

今回は、KPIの設定の仕方・考え方をお示ししたい。次々回ぐらいになれば、本文案も出来上がり、具体的なKPIを設定した案をお示しできると思う。

(委員)

具体的な施策についてももう少し議論したいと思う部分があるが、こちらも次回以降ということでよいか。

(事務局)

その通りである。

(会長)

KPI設定や次回以降の協議会の議題になるような提案・追加の質問等が今後出てくることもあると思うが、その場合は事務局へ直接連絡すればよいか。

(事務局)

ぜひお願いしたい。

6. その他

(事務局)

1点目、本日の議事録について、事務局で作成し、内容の確認については、委員を代表して会長、副会長に一任いただきたいがよろしいか。

2点目、市のホームページに、お手元の委員名簿の体裁で掲載させていただきた

いがよろしいか。

3点目、次回の協議会は9月ごろを予定している。改めてご連絡する。

(会長)

議事録と委員名簿の取扱については事務局案で良いか。

—意見・異論なし—

7. 閉会 武岡地域創生部長 挨拶

—以上—